

## 平成 28 年度 海外研修実施結果（概要）

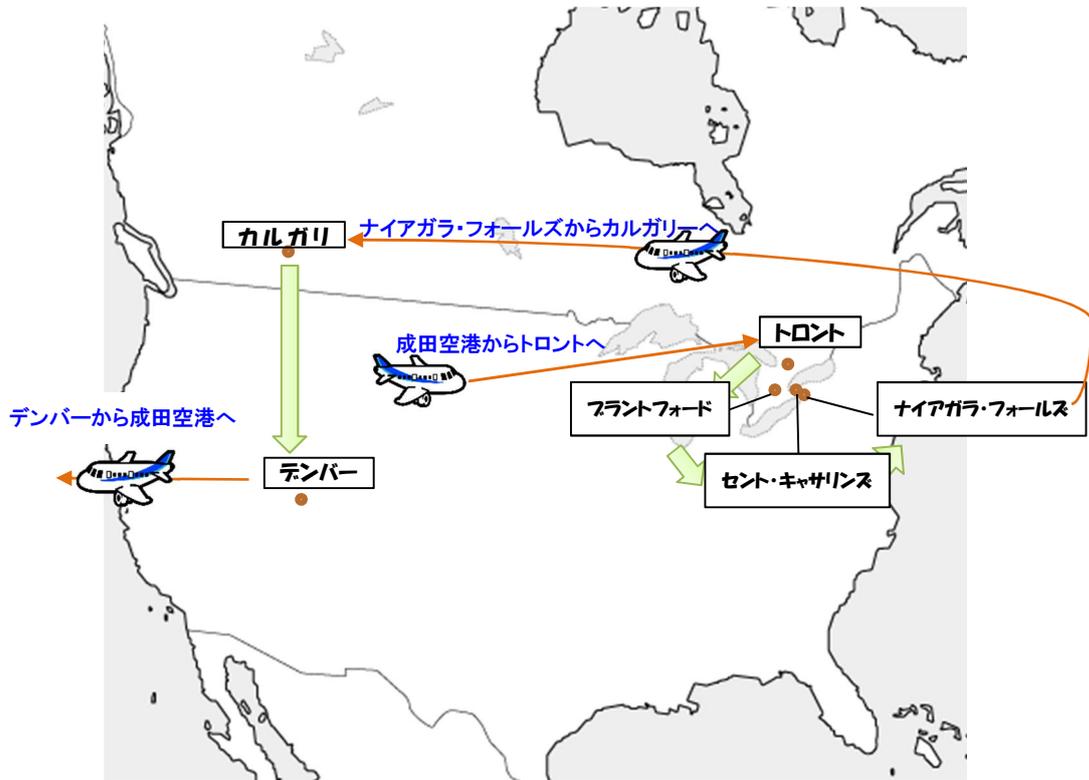
開拓者の国際感覚の涵養と農業経営の向上を図り、開拓者の農業経営の発展と開拓営農の推進に寄与することを目的とし、海外研修事業を行っております。

本年度はカナダ連邦・アメリカ合衆国において、平成 28 年 9 月 18 日から 25 日（8 日間）の研修を実施し、16 名（うち事務局 3 名）が参加しました。

研修日程および研修概要は次のとおりです。

月日	現地時刻	日程	場所
9/18 (日)	13:00  16:00	成田空港集合 オリエンテーション・結団式 空路にてワシントン D.C. 経由、オンタリオ州トロントへ (UA804/6196 便) 所要: 約 14 時間  〔トロント泊〕	成田空港  トロント
9/19 (月)	8:30 10:00 13:40 15:20	陸路、ブラントフォードへ カナダ・ホルスタイン協会にてセミナー 酪農経営農家視察① (Summitholm Holstein) 酪農経営農家視察② (Emcrest)  〔ブラントフォード泊〕	トロント ブラントフォード 〃 〃 〃
9/20 (火)	7:30  12:00  20:30 22:40	ブラントフォードのホテル出発 ゲルフ大学酪農研究施設視察 市営ファーマーズ・マーケット視察 ナイアガラフォールズ視察〜トロント空港へ 空路にてアルバータ州カルガリーへ (AC1185) カルガリー空港着  〔カルガリー泊〕	ブラントフォード ゲルフ トロント 〃 カルガリー
9/21 (水)	8:30  13:30 15:00	ホテル出発 カナダ肉牛生産者協会にてセミナー フィードロット視察① (Cattleland Feedyards Ltd.) 肉牛 (素牛) 農家視察② (Israelson Farm)  〔カルガリー泊〕	カルガリー ストラスモアー ディズベリー カルガリー
9/22 (木)	3:30 6:15 10:30 13:00	ホテル出発、カルガリー空港へ 空路、アメリカ・コロラド州デンバーへ (UA3490) 肉牛肥育農場視察① (Aristcrat Angus Ranch) フィードロット視察② (Ulrich Feedlot)  〔デンバー泊〕	デンバー プラットビル デンバー 〃
9/23 (金)	8:30 終日	ホテル出発 ロッキー山脈国立公園、市内視察後 解団式  〔デンバー泊〕	デンバー 〃 〃
9/24 (土)	7:30 12:10	デンバー空港へ 空路、成田へ (UA139) 所要時間: 約 12 時間	
9/25 (日)	15:20	成田空港着 通関後、解散	成田空港

## ～訪問都市地図～



### 〔研修概要〕

本年度の海外研修は、9月18日から25日にかけて実施。視察では、カナダ連邦のオンタリオ州、アルバータ州、アメリカ合衆国のコロラド州を訪れた。家族経営から大規模農場等、様々な経営形態を視察することができた。

カナダ連邦は人口が日本の約30%にも関わらず、国土面積は日本の約27倍（世界第2位）、アメリカ合衆国も国土面積は日本の約25倍という広大な国であるが、日本とは異なる経営形態ゆえの苦勞も知ることができた。

以下、事務局として同行した全開連 早野支所長代理の研修報告を基に視察概要を報告します。

### 9月18日

13:00 成田空港集合。参加者全員が無事に参集した。チェックインを済ませ、オリエンテーションと結団式を行った。終了後、16:00 発のユナイテッド航空にてワシントンD.C 乗り継ぎで、カナダ・オンタリオ州のトロントへ向け出発した。

トロント到着後、ホテルにて懇親会が行われた。

### 9月19日

8:00 バスにてブラントフォードへ向け出発。

訪問先1「カナダ・ホルスタイン協会」

ここでは、施設の案内とともに協会の歴史と業務内容の説明を受けた。その後、スライ

ドにてカナダの酪農について説明を受けた。

カナダでは生産調整がされており乳価の変動が無いとため、農家の経営安定に貢献している。国内安定のためのシステムであるため、TPP については反対とのことであった。

#### 訪問先 2 「酪農経営農家 Summitholm Holstein」

搾乳牛：420 頭、乾牛：70 頭、育成・未経産牛：300 頭、搾乳回数：3 回/日、搾乳量：1 頭当たり 45kg/日、経営面積：350ha のメガファーム。53%は 3 産以上とのこと。飼料は 75%が自給飼料とのことであった。

#### 訪問先 3 「酪農経営農家 Emcrest」

搾乳牛：62 頭、乾牛・未経産牛：125 頭、搾乳回数：3.5 回/日、搾乳量：35kg/日の農家。建てて 1 年半の牛舎を案内された。敷料に大豆わらを使用してる。タンパクとビタミンは自給飼料で賄っているとのこと。

視察を終え、ブラントフォード市内のレストランで夕食

9 月 20 日

#### 訪問先 1 「ゲルフ大学酪農研究施設」

Vern Osborne 教授の案内で施設を見学した。研究テーマは、餌の栄養、動物愛護・遺伝とのこと。ここでは 4 つの方法で搾乳を行っている。



#### 訪問先 2 「St.Catharinez Farmer' s Market」

市が運営しているファーマーズマーケットを職員の案内で視察した。

本日の視察は午前中で終了し、昼食後、ナイアガラの滝を見学した。



ナイアガラの滝を見学後トロント空港へ移動し、空港内にて夕食を済ませ、空路にてアルバータ州のカルガリーへ。

約4時間の移動となり、ホテルへ着いたのは23:00過ぎとなった。

9月21日

訪問先1「カナダ肉牛生産者協会」

スライドにて協会の紹介とカナダにおける肉牛生産の歴史について説明を受けた。

アルバータ州では、肥育用素牛の生産、食肉会社、飼料生産などが地域内で一体的に運営され、カナダ国内でも有数の産地になったそうである。

カナダの肉牛は、米国から導入された「ロングホーン」と呼ばれる品種が素となっていて、現在はアンガス種、ヘレフォード種などが主流である。

アルバータ州にはフィードロットが20あり、飼養可能総数は、約2万頭。肉牛の出荷体重は約1,500ポンド(£)、去勢牛の1£当たりの価格は、子牛;2ドル、素牛;1.77ドル、肥育牛(生体);1.35ドルとなっている。また、カナダでは、飼育牛の約50%がアンガス種で、これは協会により登録されている。

訪問先2「フィードロット Cattleland Feedyards,Ltd.」

25,000頭を肥育している。9~11月にかけて導入し、200~250日の肥育期間で出荷する。

導入時の重量は約350kg、出荷時の重量は750kg。肥育期間のDGは、成長ホルモン剤とモネンシンの効果で、2kgとのこと。

糞尿処理は、自然乾燥させた後ペレット化して草地等に還元させている。畑地では、バーレー、オーツなどを生産しているが、これらはサイレージとして肥育牛に給与するとの事。



訪問先3「素牛農家 Isrealson Farm」

平均飼養頭数は500~700頭。経営面積は借地を含め約1,200ha。バスで放牧場まで入り視察した。アンガス種とシンメンタル種の雄を25頭の雌に対して1頭入れ、自然交配させている。受胎率は92%とのこと。3回の種付けで不受胎の場合には淘汰される。

視察した放牧場には200対の親子いた。

視察を終えホテルへ戻り、早めに夕食を済ませ、明日の早朝出発へ向けて準備した。

9月22日

3:30 ホテル出発。カルガリー空港へバスで移動し、空路にてアメリカ・コロラド州のデンバーへ。

訪問先1「肉牛肥育農場 Aristocrat Angus Ranch」

アンガス種の一貫肥育を行っており、サーティファイドアンガスビーフ(純潔アンガス

種を証明する肉) を売りにしている。

アンガス種の他に、リムジン種及びヘレフォード種も飼育している。去勢も雌も6ヶ月で導入し、重量にばらつきがあっても、300日の肥育期間で出荷している。

枝肉は、1£当たり1ドル78~85¢、生体では1£当たり1ドル10¢とのことであった。繁殖も行っており、繁殖牛は契約しているブリーダーへ販売している。



## 訪問先2「フィードロット Ulrich Feedlot」

デンバー近郊に8,000頭規模のフィードロット4カ所を所有している。視察先は約4,000頭規模であった。(最大は12万頭飼養のフィードロット)

入牧月齢は20~22か月、生体重は約750£。概ね200日間肥育し、出荷生体重は約1,500£で出荷となる。

飼料は概ね購入で、35%がトウモロコシ圧ペン、他にビール粕、大麦、乾牧草など。なお、牧草サイレージは自給している。

飲用水は、地下水を利用しているが、コロラド州では殆どのフィードロットが地下水を利用しているとのこと。

TPPは基本的に賛成する。現在の大統領候補2名はいずれもTPPに反対しているが？との質問には(特にトランプ候補を念頭に)業界を挙げて賛成するよう運動する、との回答であった。

9月23日

8:30 バスにて研修最終日程先の「ロッキー山脈国立公園」へ出発。

昼食は鹿肉のハンバーガー。量がすごい(\*\_\*)

午後3時頃からは、デンバー市内の繁華街を散策。  
それぞれに買い物等を楽しんだ。



20:00 スケジュールの最後は解団式。会場は、デンバー市内で最も古く、有名人も訪れるという「BUCKHORN EXCHANGE」。ジビエ料理のレストラン。鹿やムース、バッファロー、ヤギ等の剥製が多数飾られている。一番衝撃を受けた「ロッキー・マウンテン・オイスター」。皆さん機会があれば是非。



9月24日

7:30 帰国の日。予定出発時刻を1時間早め、バスでデンバー空港へ出発。  
それぞれに買い物等を済ませ、12:10 発のユナイテッド航空にて成田空港へ。

9月25日

15:30 成田空港に到着。怪我等無く無事に到着。それぞれの岐路へ。

今回の研修に参加し、個人的なイメージが覆されることが多くあった。特に肥育牛の管理については予想以上に細かく管理されている事に驚いた。また、訪問する先々での活発な質疑応答により、日本との違いや差を知る事もできた。そして、何より様々な場、年代の方たちと研修できた事は貴重な経験となった。

皆様のご協力が無事終わることができましたこと、心から感謝申し上げます。  
いつか再会できる日を楽しみにしています。